



官民協働事業

- ・石垣市「南の島猫アイランド事業」(沖縄振興特別推進交付)
- ・どうぶつ基金みみ先カットねこ無料不妊手術事業
- ・石垣市民グループ「しっぽの会」



山口獣医師 中山市長 佐上理事長



石垣市役所訪問

準備から実施の流れ

5月25日：地元関係者調整会議が行なわれる。市の主催で、環境省石垣自然保護官事務所、沖縄県八重山保健所、八重山獣医師会に一斉手術の説明を行なう。

6月12日：市から市議会に「動物愛護事業費」が提案される。

6月25日：「動物愛護事業費」が市議会の承認を受ける。

8月3日：沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）による動物愛護事業が決定する。

8月8日：県から「診療施設開設届」および「麻薬免許申請・麻薬関係届出」は不要との回答を受ける。

8月14日：石垣市からどうぶつ基金に協働ボランティアになるための正式申し込みを行なわれる。

8月23日：一斉手術の実施日が決定。（10月14日～18日）

10月5日：ボランティア説明会を開催。実施期間のボランティアの役割と時間の割り振りを始める。

10月12日：佐上理事長夫妻が石垣島に到着。サザンゲート公園を視察し、午後4時～7時まで48匹の捕獲。

10月14日：齊藤獣医、山下佳那恵獣医が到着。午後4時～7時まで18匹の手術

10月15日：午前9時～手術開始。
サザンゲート以外の猫の受け入れを決める。

10月16日：午前9時～午後7時まで59匹の手術。
午後5時～中山市長を表敬訪問。

10月17日：午前9時～午後7時まで32匹の手術を行なう。サザンゲート公園に猫をリターン。

12月1日～3日：どうぶつ基金理事長他1名術後現地調査

総捕獲数：182匹

総手術数：169匹（妊娠1）

去勢済み：2匹

手術できなかった子猫：11匹

必要物資



地元団体が1ヶ月間、ネットなどで全国に支援物資の要請を呼びかけ全国から集められた物資を市で保管していただいた。

捕獲機: 50機 (20機、市が購入、30機愛護団体から借り入れ)



ケージ: 50

キャリー: 50

トイレシートワイド: 300枚

レギュラー: 1000枚

フェイスタオル: 300枚

バスタオル: 100枚

猫缶: 100缶以上

キャットフード

手術会場



手術会場内



捕獲の様子2012/10/13～10/16



2012/10/17 リターン

サザンゲートヴィレッジ公園内



不妊手術集計結果

手術日	耳先V字カット	サザンゲート公園			公園以外		
		オス	メス	小計	オス	メス	小計
10月14日	18	13	5	18	0	0	0
10月15日	61	22	27	49	6	6	12
10月16日	60	4	4	8	24	28	52
10月17日	32	0	2	2	11	19	30
合計	171	39	38	77	41	53	94

獣医師 3名



その他の手術

釣り針摘出手術

瞬幕フラップ

処置内容

- ドロンシット注射
- レボリューション
- 3種混合ワクチン

* どうぶつ基金の負担: 不妊・去勢手術・その他の手術、保液

* 石垣市の負担: レボリューション、ドロンシット、ワクチン

猫に不妊・去勢手術をすること

メリット

メス猫の場合

- ・尿の臭いが激減する。
- ・出産をしません。
- ・発情期に大声で鳴きません。
- ・オスが寄ってきません。
- ・発情期のストレスが無くなり、子宮・卵巣・乳がん等の病気の予防になります。



オス猫の場合

- ・なわばりを示すスプレー（尿）が無くなります。
- ・爪を研ぐ行為も減ります。
- ・オス同士のケンカが減ります。
- ・メスを求めて遠出をし、そのまま迷子になる事も防げます。
- ・前立腺・睪丸・肛門周辺の腫瘍・発情期のストレスが無くなり病気の予防になります。

手術済の目印(さくらみみ)

「V字カット」

欧州などで一般に行われている方法。

不妊・去勢手術後、麻酔が効いている間に、耳先端の出血の少ない部分をV字に切り込み、消毒や止血を行う。外観で判断できるので、わかりやすい。



行政による猫の殺処分約**9割**が仔猫です。不妊手術を施すことで殺される命を未然になくすことができます。殺すのではなく共生していくために、**手術は必要不可欠**です。

猫の個体識別管理

タグ

- ・ケージと猫の足につける。(猫には麻酔をかけてから)
- ・すべての猫を写真に撮り、記録を付ける。
- ・タグには、捕獲日、捕獲時間、捕獲場所、性別、処置内容、毛色などの特徴を記入
- ・チェックシートを合わせて使用することで、ダブルチェックができ、間違いを防げた。



避妊現地調査・去勢手術後、現地調査

2012年12月1日～3日

避妊・去勢手術後、公園内の変化につて

- 猫の糞尿の臭いが減った。
- 猫が人に、なつくようになった。
- 猫の毛並みが良くなった。
- 猫同士の喧嘩が減った。
- 猫に会いに来る人が増えた。
- 公園利用者に喜ばれている。
- 市民の生き物に対する意識の向上



・サザンゲート公園内に猫用トイレを整地
(建設部港湾課が管理している。)



清潔にしてもらうと、早速さくらねこがトイレを利用



石垣市民の家族連れ・猫に餌やりにこられていた。
猫も、公園もきれいになって喜ばれていた。

中山石垣市長に猫不妊手術事業提案書を提出しました。

今後の課題と要望

人工島公園について

- 捕獲漏れの猫や、新たに捨てられた猫の避妊去勢手術を施すこと。
- 猫親探しを継続して行い、頭数を減らしていくこと。
- 餌やりのルール作り。

石垣市全体の猫問題について

- 多頭飼育崩壊現場や街猫の避妊去勢手術も必要である。来年度も引き続きこの事業を、継続していただきたい。石垣島全体の猫のTNRを行う。
- 石垣市の犬の不妊去勢手術をする必要がある。(市内全域で放浪している犬をよく見かける。捨て犬(仔犬)が多い。



八重山毎日新聞10月20日

南の島の猫アイランド事業」
「猫79匹の不妊手術実施」
「緑地公園の快適利用 今後の取り組み次第」

石垣市が管理する新港地区緑地公園で一斉捕獲された猫は、79匹が不妊手術を終え、耳先V字カットの「南の島の猫アイランド事業」
「猫79匹の不妊手術実施」
「緑地公園の快適利用 今後の取り組み次第」

石垣市が管理する新港地区緑地公園で一斉捕獲された猫は、79匹が不妊手術を終え、耳先V字カットの「愛され猫」(公益財団法人どうぶつ基金)として同公園に戻った。市が同基金やボランティアらと連携して実施したことは、同公園を一代限りの命を全うしてもらう場所として公認したことを意味する。今後、猫の適切な管理と公園内の衛生環境の向上が求められる。(比嘉盛友記者)
「愛され猫」(公益財団法人どうぶつ基金)として同公園に戻った。市が同基金やボランティアらと連携して実施したことは、同公園を一代限りの命を全うしてもらう場所として公認したことを意味する。今後、猫の適切な管理と公園内の衛生環境の向上が求められる。(比嘉盛友記者)
「衛生環境の悪化」

同公園は遊具もあって子どもたちに人気だったが、数年前から捨て猫が多くなった。繁殖するなどして数が増え、あちこちにエサの残りや糞(ふん)が散乱、衛生環境の悪化を招いていた。

子育て中の中山義隆市長も「以前は家族連れがいっぱいだったが、猫が増え、糞もあって、子どもを遊びに連れて行けない状況になっている」と公園利用者が減っている現状を指摘する。

3年前に移住してきた中川美也子さん(48)は「市街地に近く景色も良いところだったので、当初はバーベキューしたりと利用していたが、今は猫もゴミも多くなり、使いたくない」と嘆き、「少しでも役に立ちたい」と同事業に賛同してボランティアに加わった。
「終わりではない」

同公園内で17日、市、基金、ボランティアらがケージに入った猫を出し終えると、拍手がわき起こった。

同基金は、耳先カット猫無料不妊手術事業を全国で展開しているが、石垣市など行政と協働で行うのは初めて。

佐上邦久理事長は「初の試みとして全国の見本となる」と評価する一方、「これで終わりではない。継続して初めて効果が出る。事業は始まったばかりだ」と引き締めた。

不妊手術をしたことで「自然淘汰(うた)される」(同基金顧問・山口武雄氏)ことになるが、捨て猫が増えれば元の木阿弥。山口氏は「猫は年に3、4回生む。あつという間に増える」と捨て猫対策の重要性を指摘する。

一方、不妊手術をしたからといって、現状の環境が即良くなるわけではなく、餌や糞が散らからないようにしなければならない。同基金は「まちがきれいになることはすべての住民にとってプラス。猫が嫌いな人にとってもプラスです」という。

ボランティア団体が要望している餌やり場やトイレ(砂場)について中山市長は取材に「餌を食べる場所がバラバラになると汚れるので、何力所かに餌場や水飲み場、トイレをつくりたい」と答えた。

市民が公園を快適に利用できるかどうかは、今後の取り組み次第だ。

南の島の猫アイランド事業

衛生環境の悪化
同公園は遊具もあって子どもたちに人気だったが、数年前から捨て猫が多くなった。繁殖するなどして数が増え、あちこちにエサの残りや糞(ふん)が散乱、衛生環境の悪化を招いていた。

猫79匹の不妊手術実施

緑地公園の快適利用 今後の取り組み次第

「愛され猫」(公益財団法人どうぶつ基金)として同公園に戻った。市が同基金やボランティアらと連携して実施したことは、同公園を一代限りの命を全うしてもらう場所として公認したことを意味する。今後、猫の適切な管理と公園内の衛生環境の向上が求められる。(比嘉盛友記者)

「衛生環境の悪化」

同公園は遊具もあって子どもたちに人気だったが、数年前から捨て猫が多くなった。繁殖するなどして数が増え、あちこちにエサの残りや糞(ふん)が散乱、衛生環境の悪化を招いていた。

子育て中の中山義隆市長も「以前は家族連れがいっぱいだったが、猫が増え、糞もあって、子どもを遊びに連れて行けない状況になっている」と公園利用者が減っている現状を指摘する。

3年前に移住してきた中川美也子さん(48)は「市街地に近く景色も良いところだったので、当初はバーベキューしたりと利用していたが、今は猫もゴミも多くなり、使いたくない」と嘆き、「少しでも役に立ちたい」と同事業に賛同してボランティアに加わった。
「終わりではない」

同公園内で17日、市、基金、ボランティアらがケージに入った猫を出し終えると、拍手がわき起こった。

同基金は、耳先カット猫無料不妊手術事業を全国で展開しているが、石垣市など行政と協働で行うのは初めて。

佐上邦久理事長は「初の試みとして全国の見本となる」と評価する一方、「これで終わりではない。継続して初めて効果が出る。事業は始まったばかりだ」と引き締めた。

不妊手術をしたことで「自然淘汰(うた)される」(同基金顧問・山口武雄氏)ことになるが、捨て猫が増えれば元の木阿弥。山口氏は「猫は年に3、4回生む。あつという間に増える」と捨て猫対策の重要性を指摘する。

一方、不妊手術をしたからといって、現状の環境が即良くなるわけではなく、餌や糞が散らからないようにしなければならない。同基金は「まちがきれいになることはすべての住民にとってプラス。猫が嫌いな人にとってもプラスです」という。

ボランティア団体が要望している餌やり場やトイレ(砂場)について中山市長は取材に「餌を食べる場所がバラバラになると汚れるので、何力所かに餌場や水飲み場、トイレをつくりたい」と答えた。

市民が公園を快適に利用できるかどうかは、今後の取り組み次第だ。

土曜リポート

新聞を読むからちゃんとつづやける

新聞週間



不妊手術を終え、ボランティアらによって捕獲された場所に戻される猫—17日午後2時30分ごろ、新港地区緑地公園内

八重山日報10月15日



八重山毎日新聞10月14日



八重山毎日新聞10月14日

八重山日報10月17日

生き物に優しいまち発信
 どうぶつ基金が期待
 南の島ネコア
 イラランド事業
 信でできる」と期待す
 ネコは年3回、計15
 匹程度と多産すること
 から、同基金は「捕獲
 して不妊手術をし、元
 の場所に戻す」運動を
 展開。「地域の猫とし
 て、一代限りの命を優
 しく見守ってほしい」
 と呼びかける。手術の
 際、片方の耳先をV字
 にカットして「不妊手
 術済み」の印とする。
 環境省も推奨してい
 る。
 物に傷
 上理車
 ランチ
 一つに
 すること
 下され
 物に傷
 上理車
 ランチ
 一つに
 すること
 下され
 物に傷

[illegible]

八重山日報10月18日



八重山毎日新聞10月18日



公益財団法人どうぶつ基金

・兵庫県芦屋市奥池南町71-7

・TEL 0797-57-1215

・FAX 0797-25-2075

・HP

[HTTP://WWW.DOUBUTUKIKIN.OR.JP/](http://www.doubutukikin.or.jp/)

・いのちつないだ♥ワンニャン写真コンテスト

[HTTP://CONTEST-2012.DOUBUTUKIKIN.OR.JP/](http://contest-2012.doubutukikin.or.jp/)

・活動ブログ

[HTTP://DOUBUTUKIKIN2010.BLOG58.FC2.COM/](http://doubutukikin2010.blog58.fc2.com/)

・さくらねこブログ

[HTTP://BLOG.LIVEDOOR.JP/SAKURAMIMIMI/](http://blog.livedoor.jp/sakuramimimi/)

